

平成 20 年 2 月 14 日

各 位

会 社 名 シンワオックス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 今 田 輝 幸  
(コード番号 2654 大証第二部)  
問合せ先 取締役経営企画室室長 松浦 公司  
(TEL. 06-6683-3101)

「事業再編計画」における取組みの進捗に関するお知らせ

平成 19 年 6 月 25 日に発表させていただきました「事業再編計画」における現状の進捗について、お知らせいたします。

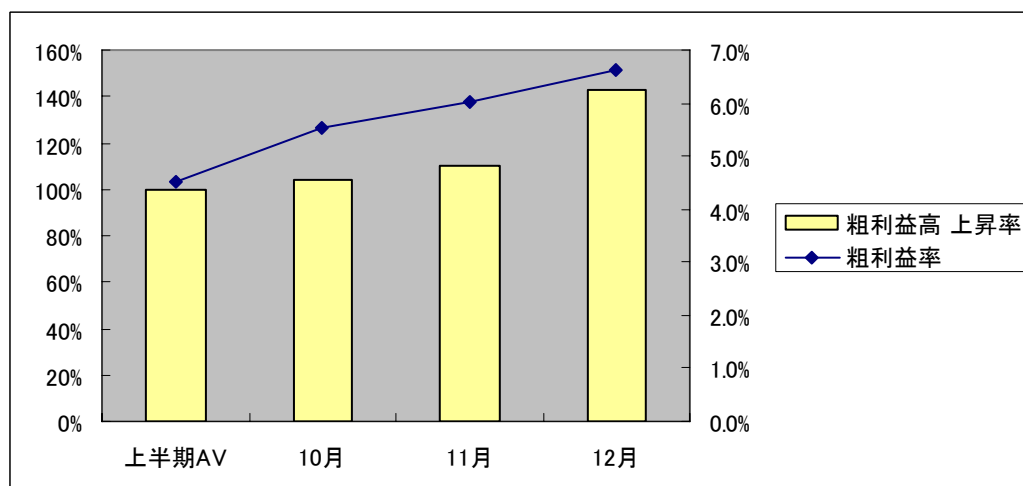
記

1. 不採算店舗・事業の見直し  
(1) 卸売事業の見直し

ブランド開発部によるオリジナル商品の開発、販売を実施しており、次第に効果が出ておりますが、大きな寄与には至っておりません。しかしながら、卸売事業全般において、当期より販売政策を変更し、高い利益率を見込める商材に絞り込み販売を強化したことで、在庫量が適正化されたほか、粗利益率が大幅に改善されました。

今後におきましては、継続して高利益商材の販売を強化し、新しいビジネスモデルとして確立べく取組んでまいります。

粗利益高上昇率（対上半期平均）、粗利益率の推移（平成 19 年 10 月～12 月）



(2) 不採算店舗の撤退とそれによる効果

不採算店舗に関しましては、現状、1店舗の退店および6店舗の転貸を実施しており、通期で約20,537千円の営業損失を吸収できる見込みであります。さらに、当期中に2店舗の退店および1店舗の転貸を予定しておりますが、その他の不採算店舗の退店が遅れたため、当初の目標水準を下回る見込みであります。

また、上記に加え、販売促進費をはじめとする販管費の圧縮により、営業利益率を改善したほか、12月度においては、外食店舗全体において、予想以上の営業利益を確保いたしました。特に「銀座蔵人 ヒルトンプラザ ウェスト店」をはじめとする和食業態におきましては、売上高、営業利益ともに前年同期を上回る店舗も多く、厳しい環境下におきましても堅調な伸びをみせております。

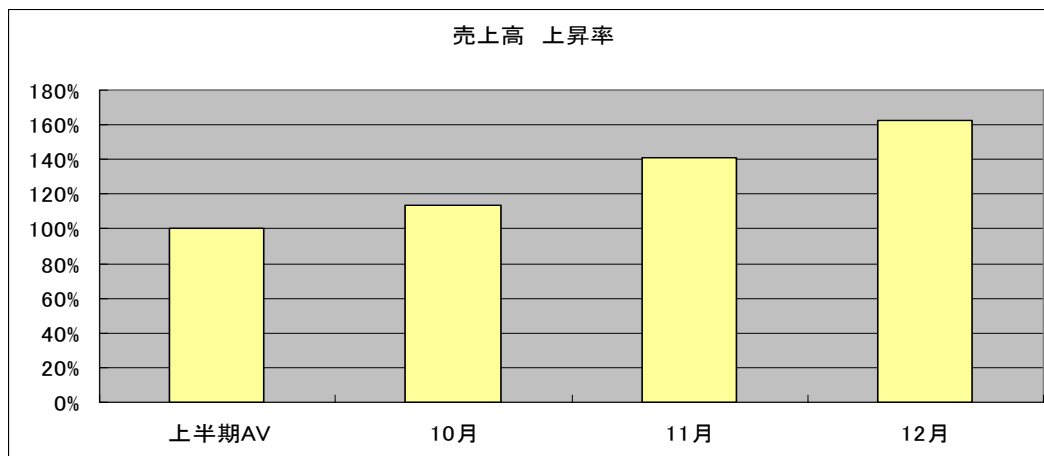
今後におきましては、不採算店舗の撤退を推し進めると同時にブランドの集約化を進め、確実に利益を確保できる体制を構築してまいります。

### (3) ホテル事業の見直し

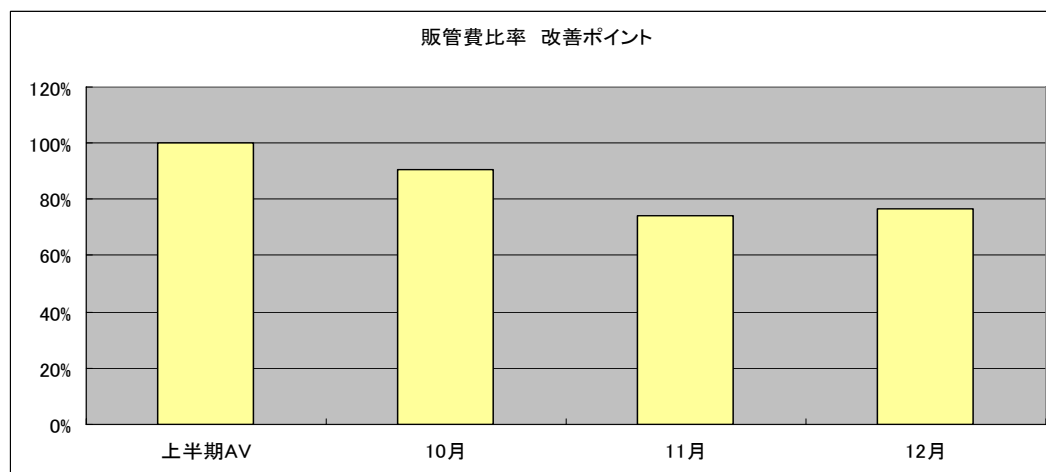
独自スタイルの訴求による認知度の上昇に伴い、宿泊をはじめ、宴会、婚礼等の利用者が増加しており、安定的な売上を確保するに至っております。特に当第3四半期の3ヶ月間においては、飛躍的に売上高が増加（当期第1四半期対比 38.8%増 ※四半期ごとの平均値による対比）しております。また、販管費の抜本的な見直しなど収益改善に向けた取り組みにより、当第1四半期に比べ販管費比率が 18.9 ポイント改善（※四半期ごとの平均値による対比）するなど大きく収益に貢献いたしました。これにより、ホテル事業単体での黒字化の目処が立ってまいりました。

今後におきましては、独自スタイルを訴求し、安定した顧客の獲得を図るとともに、継続して販管費を適正化していくことにより、利益体質を確固たるものにしてまいります。

売上高上昇率 （対上半期平均）



販管費比率の改善 （対上半期平均）



## 2. 本部費と中間管理費のさらなる圧縮の実施

### (1) システム関連業務の統合

7月度より物流センターにおける食材アイテム登録業務を本社に移管し、メニュー登録システム関連業務の一元化等を図ることで、人員を圧縮し、人件費を約 650 千円/月圧縮いたしました。

### (2) 間接費用の削減に向けた組織再編の実施

外食・ホテル事業における人材開発に関わる業務を 11 月度より総務部人事課に統合するなど人員の異動、集約を行うことで業務の効率化を図っております。

また、フードサービス・ホテル事業本部の事務所移転に伴い、2月よりランニングコストを約 500 千円/月削減する見込みであります。

そのほか、固定費(本部経費)においては、人件費の圧縮をはじめとする販管費の圧縮に努めた結果、合併当初と比較し、40.1%の経費圧縮を達成しております。

### 3. 関係会社における独立採算を前提とした見直し

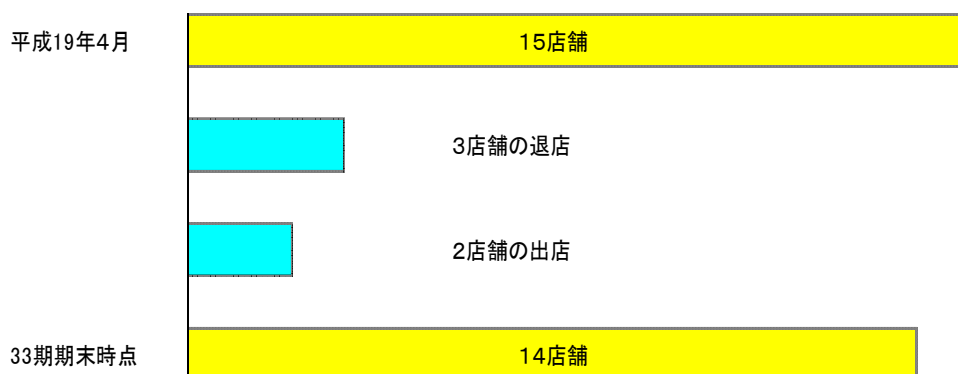
#### (1) ㈱関西村さ来

不採算店舗を2店舗退店したことにより収益改善が図れました。また、F C事業部門におきましては、安定した収益を確保しております。しかしながら、依然直営店舗の収益改善に遅れがみられ、該当店舗におきましては、営業時間の見直しに着手し、効率のよい運営を行うと同時に、業態変更並びに退店等を実施することで、収益改善を図ってまいります。

#### (2) OX 香港

既存店舗による収益改善および不採算店舗の撤退に加え、当期におきましては、収益性の高いフードコート内への出店を2店舗実現しており、いずれも堅調に推移しております。

上記のとおり収益体制は、確実に好転しており、今後におきましても継続して不採算店舗の収益改善等を推し進め、利益率の上昇を図ってまいります。



### 4. 役員報酬の見直し

平成19年4月度より、報酬を20%削減しており、現状も継続して実施しております。

以 上